

漢字は忘れた頃に覚えられる!?

提出した漢字を幼児たちが習得しないうちは、決して次へ進まない。という先生がよくあります。

これは、幼児の漢字を覚える覚え方について理解がないためです。幼児の言葉を覚えていった、その覚え方をよく考えてみてください。幼児は常にたくさんの言葉を耳にしています。それを、その中からどれということもなしに、いつともなく身につけていっているのです。一つの言葉を覚えないうちは、他の言葉は教えない、というやり方で言葉を教えたら、幼児は言葉が使えるようにはとてもなれないだろうと思います。

漢字の場合も同じです。確かに今までの漢字教育(今でもそうですが)は、一つ一つ順序を立てて提出し、その場でそれを習得するように要求してきました。私は、それが合理的に見えて実に不合理だと言うのです。

漢字を幼児に与えたら、それを覚えようと覚えまいと、知ったことじゃあない、幼児に漢字を与える、それが仕事で、その仕事が済んだら、あとはお役目放免、先生はそんな気持ちでいなさいというのが“石井方式”です。

教師が漢字を指導したことなど忘れてしまった頃になって、漢字は徐々に幼児の順に吸収され、たくわえられるのです。

「天災は忘れられた頃にやって来る。」と言いますが、「漢字は、教えたことを忘れた頃に覚えられる。」と言えるのではないのでしょうか。

先に聞いた言葉を覚えないうちは、後に聞いた言葉は覚えられない、ということがあり得ないように、一つの漢字が覚えられないうちは、次の漢字が覚えられない、というものでは絶対にありません。

覚えようが覚えまいが、次から次へと、新しい漢字を提出していく。すると、後から提出された漢字のほうを先に覚え、それが前の漢字に関連して、それまで覚えられなかったのに簡単に覚えられた、そういうことがよくあるのです。

「池」が与えられた。覚えられない。次に「海」が与えられた。すると、「池」と「海」がいつぺんに覚えられた。……こういうことが、実際には多いのです。

それは、先にも述べましたように、「池」が覚えられない時に、頭が休んでいたわけではなく、記憶作業は進行していたのかもしれませんが、ただそれが外に結果として現われないだけだったのかもしれませんが。

だから、「池」に似た「海」が新しく与えられたことによって、(それが刺激となって)「池」の記憶が完成したのかもしれないのです。

ともあれ、覚えようと覚えまいと、ひと所に止まっていることのないようにしてください。停滞は禁物です。前進しましょう。